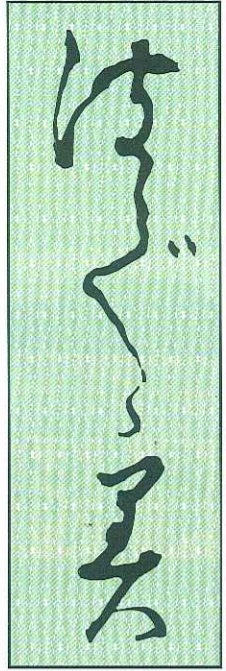


子どもたちの輝く未来を

～「個」が「孤」にならないために～

大分県PTA



発行所
大分市大字下郡496の38
大分県教育会館2F
大分県PTA連合会
☎(097)556-9055
http://www.oita-pta.com/
責任者 富永大輔
印刷所 大分市大分北町4485番地の1
大分印刷



「生きる力」は

人の輪から生まれる

築こう 人と人との輪

子育てに対しての戸惑いの声が多く聞かれる中、子どもたちの笑顔を守るため、私たち保護者は、何からはじめればよいのだろうか。身近に、そしてともに取り組めることを探してみたい。

「今、私たちを取り巻く社会環境の著しい変動が、安心安全な暮らしを脅かしている」といわれて久しい。

子どもの健全育成を図る分野でも、この影響を受けて、家庭や地域で育つ子どもへの関心が強く持たれ、その教育力が期待されている。

「個」が「孤」になりつつある現在、人とのつながりの大切さを改めて再確認する時期といえるのではないだろうか。家庭では、家族の時間の不揃いが、団らんの機会をうばうなど、家族の絆に与える影響が大きいと指摘されている。

家庭での子どもや周囲との関わりについて、「いつも、家族全員でチームを組むように動いて、子どもとしっかり向きあうことを心がけている」と「親子で積極的に地域行事などに参加している。地域の方と知り合えて、気軽に話ができるようになった」「子どもたちの登下校時の声かけやあいさつにも努めている」などの声が聞かれた。このことから、周囲との結びつきを日常的に心がけ、大切に思っていることがうかがえる。自ら声を出し、地域社会とのつながりを求める姿勢が大切だとと思われる。

そこで、自分自身がすぐに

「子どもが輝く未来を約束するための諸事業の一環として「保護者心得六箇条」を策定した。保護者自身が子どもに手本を示し、それぞれが一体となることで、子どもたちの健全育成の実現を目的として、全会員に配布している。

保護者心得六箇条の骨子として、一、あいさつができる。二、他人を尊重する。三、自分の役割を果たす。四、他人の悪口を言わない。五、社会の秩序を守る。六、地域社会の活動に積極的に参加する。とした。この活用事例として、あいさつ運動や地域連携、子育てやPTA活動に対する意識化を図るため、掲示や広報



元気にあいさつする子どもたち

県P連では、手を携えて育てよう「地域の宝」が光輝くために子どもが輝くPTA活動を目指して「」をスローガンに掲げている。そこで、県P連では、子どもたちの輝く未来を約束するための諸事業の一環として「保護者心得六箇条」を策定した。保護者自身が子どもに手本を示し、それぞれが一体となることで、子どもたちの健全育成の実現を目的として、全会員に配布している。

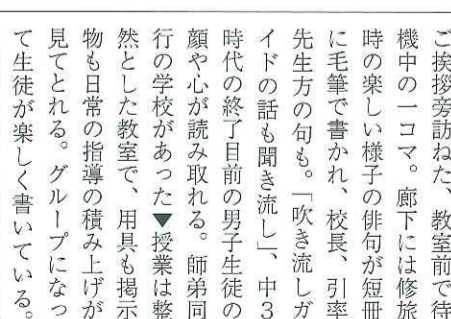
日常忘れがちな点を思い起こし、日々心がけ、ともに子どもたちの幸せにつなげていきたいものである。

六箇条を手がかりに 取り組みを

での呼びかけを行っている。活用の継続化にあたっては、理屈ではなく親の背中を示し習慣化につなげていく取り組みを考えてみてはどうだろうか。

平成22年度大分県PTA連合会「保護者心得六箇条」活用に係るアンケート結果

質問	保護者心得アンケート			合計
	はい	いいえ	分からない	
活用していますか	47	63	26	136
%	35%	46%	19%	100%



地域連携は あいさつから

コミュニケーションの第一歩は「あいさつ」ではないだろうか。いつでもできる人と人をつなぐ輪であり、原動力にもなる。そこで地域とのつながりの糸口として、あいさつからはじめてはどうか。

子どもたちの未来が明るく光輝き、笑顔が絶えない世の中になるよう願って止まない。なお、この「保護者心得六箇条」は来年度の新一年生にも配布を予定している。



要望書を提出する富永県PTA連合会

小矢文則県教育長に提出

富永大分県PTA連合会は、昨年12月16日、小矢文則県教育長に対し、平成23年度における「中学校3年生学力診断テスト」の継続実施についての要望書を提出した。「中学校3年生学力診断テスト」の実施が4年を経過し、平成23年度についても、各都市P連（育友会）から、学力診断テストの実施の要望を受けた。そこで、来年度の「要望書」として県教委に提出した。「中学校3年生学力診断テスト」の実施は、県下普通科高校全県一区導入における、選抜試験の目安となるものである。診断テ

「中学校3年生 学力診断テスト」 実施の要望書を提出

「要望書」提出の後、保護者心得六箇条の趣旨を中心に、子どもを育む子育てや今後のPTAのあり方などについて、話し合った。

多くの方に、大分の教育を知ってもらい、率直に意見が言い合えるようにしていきたい」と述べた。

小矢文則県教育長は「各市町村と県の双方が、しっかりと役割を持つていくよう努力していきたい」と述べた。

保護者心得六箇条

- 一、あいさつの手本は、まず、大人が示そう。
- 二、一人ひとりを尊重できるように、自分の人権意識を高めよう。
- 三、権利ばかり主張せず、保護者としての義務を果たそう。
- 四、学校や先生の批判を、子どもの前ではしないようにしよう。
- 五、学校に対しての相談は、まず、担任の先生にしよう。
- 六、PTA活動を通して、子育てを楽しもう。

保護者自ら襟を正し子どもに手本を示そう。皆で気持ちを一つにして同じ方向性で子どもを育てていこうという思いから全会員に配布。

研心北

「お久しぶりです」。教室移動中の一団の中から、

見ると以前私の塾生だった中3女子。表情に落ち着きが見え、静かに移動する級友等と共に成長の様子が伺え9ヶ年の成果と母校の指導力に感服その日は国東市立武蔵中学校の全国夢一文字コンテストの取り組みをTOS TVさんが取材してくださるということで急遽、会長、事務局長と3人でご挨拶を交わした。廊下には修旅時の楽しい様子の俳句が短冊に毛筆で書かれ、校長、引率先生方の句も。「吹き流しがイドの話も聞き流し」、中3時代の終了目前の男子生徒の顔や心が読み取れる。師弟同行の学校があった▼授業は整然とした教室で、用具も掲示物も日常の指導の積み上げが見てとれる。グループになって生徒が楽しく書いています。この年にかける決意や目標の一字を自分のものとして、意匠を凝らし、嬉々として書いています。コンテストを国語科書写時間に組み込み、社会の行事と立派に噛み合わせている。ここには、書写時間の他教科活用問題は無し。卒業や受験を目前にした悲愴感も微塵もない。どの中学校の国語科もこうあってほしいものだ。全校応募とか。素晴らしい。窓ガラスに貼られた生徒の毛筆文字「志望校全員突破」が冬の空に浮かんでいる。校満開間違いない▼一文字に書いて、公言した以上は、それに反しないよう自律の矜持にしてほしい。卒業して何処に居ても、挨拶や正しい文字や美しい言葉を使う社会人になっていただきたい。そのことが「いい人、いい郷土、いい文化」を掲げる連盟の願いでもあります。次回も是非ご応募を。

PTA研究大会 別府市大会

すぶ 親子の絆

第19回大分県PTA研究大会別府市大会が1月22日(土)開催され、県下より関係者約1200名が参加。

「湯のまち別府発! あったかであぐもりのあるPTA活動」を研究主題に「愛と絆で学びあい支えよう やさしさと夢をもつ子どもたちを」の大会スローガンのもと、ピーコンプラザと他2会場で行われた。特別分科会では、べつぶ素人劇団P座による昭和をふり返る寸劇が披露されるなど、新たな試みにより大会が盛り上がった。

午前中の全体会に続いて午後からは各会場に分かれ、活発な討議がなされた。

全体会

開会式で富永大輔県P連会長は「時代の状況は大きく変わり、心の教育の充実が大きな課題となっている。PTAには家庭と学校、地域の要としての努力が期待されている。また、教育の原点は家庭であることを再確認するために『保護者心得六箇条』を全戸に配布した。子どもとの関わり方を今一度、考えていただきたい」とあいさつした。

続いて権藤和雄実行委員長があいさつし、来賓の祝辞へと移った。

広瀬勝貞県知事は「県Pの



あいさつする富永県P連会長

第1分科会 組織運営

PTA組織の枠をこえた活動

【「絆」ご縁と笑顔で集う組織・運営】をテーマに約250名が参加し討議。

田中真由美・橋本弥和ら大分市立森岡小学校P副会長は「一致団結! 森っ子の笑顔を願うPTA活動の実践」と題し発表。「今後のPTA活動に役立てるため、PTA組織・運営に関するアンケートを保護者に実施。PTA活動に関心はあるが参加・協力は難しいと感じる割合が多かった。反面、活動にやりがいを感じている保護者も過半数を超えている結果に。P活動は子どもたちのために行う活動という意識を高めていきたい」と報告。

討議では、「子ん森会(PTA組織外のOBを含む団体。除草作業などのP活動に参加している)」について関心が集まった。「OBを組織に誘う工夫」などの質問が出た。

伊藤貞之別府市立朝日中学校校長は「保護者にアンケート

第3の眼を 学校に

次に、山本美咲別府市立朝日中学校P会長は「『拡げよう! つなげよう! Waku! PTA』」PTA活動を家庭・地域に、拡げる手だてはいかにあるべきか」と題し発表。

「PTA活動をさらに家庭・地域に拡げるため、まず有志を募り『朝中を語ろう(会)』を夜に開催。父親も多数参加し保護者同士や教職員で情報交換をした。この会をきっかけに絆プロジェクトを立ち上げ、愛校作業などの行事にも参加。PTA会員や組織など

第2分科会 家庭教育

親子の愛は心のふれあいから

【「愛」親の愛と子育ては家庭から考える】をテーマに約100名が参加し討議。

荒巻徹国東市立竹田津小学校P副会長は「心のふれあいめざして親子体験活動! 親子読書活動を中心にして」と題し発表。「親子で共通の体験をすることで、心のふれあいができると考え、親子読書活動や共通体験活動などに取り組んだ。その結果、「ふれあう時間が増え、話題が広がった」「子どもの違う一面

を感じた」などの声が聞かれ、取り組みの成果が出たと考えられる。今後もこの取り組みを充実していきたい」と報告。

討議では「一活動後、どのようになり子どもが変わったか」「家庭内での取り組みにおける親子間での意識の温度差はなかったか」などの質問が出された。

また、家族の絆についても活発な意見交換がなされた。

入江義親別府市立上人小学校校長は「子どもたちとじっくりむきあい、心のふれあいを

の絆にとらわれず、OBや地域の方にも参加を呼びかけている。これからの絆を拡げ、活動を継続・定着させたい」と報告。

討議では、「朝中を語ろう(会)」や地域とのつながりについて活発に意見が交わされた。

森脇康典教育庁社会教育課社会教育主事は「絆プロジェクトは課題をよく考え行動している。学校の中に第3の眼を入れることで気づきが生まれる。他校の参考になる。これからの絆プロジェクトを大きく育て、朝中PTAの文化に。継続により大きな成果が生まれる」と指導助言した。



多くの参加者で熱気に包まれる場内

親子で 共有の時間を

次に、栗林智盛豊後大野市立三重中学校P会長は「今こそ見せよう親子の力! 愛の環境美化作業」と題し発表。「子どもが中学生になると、親子とも忙しくなり、共有した時間を確保することが困難となりつつある。そこで、保護者のみで行ってきたPTA作業を親子で行い、互いのコミュニケーションづくり」に役

第3分科会 学習活動

PTA活動をともに育つ場へ

【「学び」子どもと共に学び、成長する親づくりを考えた】をテーマに250名が参加。

木下靖郎 日田市立南中学校教育友会副会長は「南中ブランド(陣ヶ原茶)親子で学ぼうお茶づくり」と題し発表。「南中」のあじさつ運動は生活習慣の確立を目指す。学校と連携を取り、進めた。地域とも運動会やパトロール、交流会を通しコミュニケーションがとれ、地域の一員としての自覚を持つことができた。笑顔あふれるP活動で子どもたちを支えていきたい」と報告した。

討議では、P活動参加へのアプローチの方法、あいさつの定着状況への質問の他「多くの活動に感心した」「地域との連携が素晴らしい」との感想があった。

馬場尚登教育庁社会教育課社会教育主事は「各活動が子どもと保護者にとって学びの場であり、打ちこんでいる姿勢が伝わる。継続してほしい」と指導助言した。

連携とれた 笑顔あふれる活動

次に、秋吉恵別府市立西小学校P会長は「子どもと共に学び、成長する親づくり」にこころしけん「笑顔のあふれるPTA活動を通して」と題して発表。「子どもたちのコミュニケーション力・自尊感情を育てるために具体的な活動を実践。」「ここにあ

いさつ7つのチェック」や「朝のあいさつ運動」は生活習慣の確立を目指す。学校と連携を取り、進めた。地域とも運動会やパトロール、交流会を通しコミュニケーションがとれ、地域の一員としての自覚を持つことができた。笑顔あふれるP活動で子どもたちを支えていきたい」と報告した。

討議では、P活動参加へのアプローチの方法、あいさつの定着状況への質問の他「多くの活動に感心した」「地域との連携が素晴らしい」との感想があった。

馬場尚登教育庁社会教育課社会教育主事は「各活動が子どもと保護者にとって学びの場であり、打ちこんでいる姿勢が伝わる。継続してほしい」と指導助言した。

立てたいと考え、学年ごとに行っている草刈りで実践。親子で共有した有意義な時間の中で感じられる達成感を持つことができた。今後も継続し、よりよい方法を探していきたい」と報告。

討議では、親子でのコミュニケーションづくりのあり方や工夫の仕方などについて、

参加者の関心が集まった。

石井圭一郎県教育庁社会教育課社会教育主事は「子どもに對し、本音で向きあい話すことが大切。社会での最小単位が家庭である。成長をしっかり見つけることが子育ての基本となる。これからの子どもと、しっかりと向きあっている」と指導助言した。

教育問題懇談会

県P連の要望事項に県教委の回答

平成22年度

県P連では、毎年各郡市P連より出された教育行政への要望事項を県教委に示し、教育問題の解消に努めている。

今年度は平成22年11月19日、大分県教育会館において開催された。県教委からは伊見英治教育次長をはじめ関係各課より12名、県P連からは富永大輔県P連会長他副会長・理事ら16名が出席。要望ごと回答をいただいた後、熱心な質疑応答が行われた。(要望は20項目にわたるが、紙面の都合で以下抜粋した)

●教育問題重点課題要望事項
●秋田県や福井県に教諭派遣をした成果について(義務教育課)
▼取組の初年度である平成21年度に18名の学力向上支援教員を配置した8市村では、それぞれの「学力向上推進計画」の数値目標に対する取組状況を年度末にホームページ等で公表している。

▼また、平成21年度には全国トップの学力向上対策先進県である秋田・福井両県に、全18市町村の50名の教員を派遣した。市町村で実施された視察報告を受けて、子どもたちがその「1時間」の学習内容を確実に身につけられたかを評価し完結する授業(いわゆる「1時間完結」型授業)や板書の構造化などの授業改善が多く、小・中学校で進められている。昨年視察した教員の中には、指導主事になった者や学力向上支援教員に指名された者もいて、それぞれが地域の学力向上推進の中核者として活躍している。

●教育予算に関する要望事項
●小・中学校、全学年での30人学級実現について(教育人事課)
▼30人学級について
・国の方針では平成23年度から8年間で順次35人学級にする方針で、来年度は小学校1・2年生を35人学級にする方向である。
・大分県は、現在児童数を見ると、小学校の8割以上が35



あいさつする伊見教育次長

●中学校の全教科免許保有者による授業の実現について(教育人事課)
▼小規模中学校での免許外教科担任の解消をはかるため、その地域で先生が複数校業務することを実施している市町村教育委員会がある。このようなエリティアチャーの考え方を評価している。小学校児童を中学校教員が指導し、効果が上がっている報告もあり、先生方を有効に活用していきたい。

●道徳は、子どもたちの豊かな人格を形成し、国家社会の形成者として必要な資質を培う場である。そのために学校集団生活の場を十分に生かして一層の充実を図っていくよう指導している。道徳という豊かな心の基盤がないと確かな学力や体力の柱は立たないという立場に立って、平成21年度から小中学校に道徳教育推進教師を位置付け、推進教師を中心として実践講習会等を実施し指導力の一層の向上に取り組んでいる。

1年のみのりを募集しています

第34回大分県PTA広報紙コンクール

締切 平成23年3月29日(火)
審査日 平成23年4月7日(木)
表彰式 平成23年4月22日(金)

※応募対象※
県下の小・中・特別支援学校PTAで年3回以上定期発行した広報紙(号外を除く)
(平成22年4月から平成23年3月発行分)
審査対象は小学校と中学校の2部門とする。

「第34回大分県PTA広報紙コンクール出品についてのお願い」は各PTA事務局を通し単位PTAに送付しています。

母親として学ぶこと

母親部会



母親部長 豊田 有里

今年度の県P母親部会を振り返りますと、年間4回の部会の中で、16郡市の活動状況の意見交換と、2回の講演会でお話を聞きました。
一つは「子どもの生活習慣をつくるための親としてのありかた」と、もう一つは「携

みんながながえるコーナー

反抗期 どう接したらいいの?

みえない「手心」というつきあい方

近頃の犬のフンを踏みつけようとした。
「ちよっと、やっぱり踏むとくさいよ」と強く言った。子どもたちは、踏みつけもせず、無口で、帰って行った。度を超し、からかい続け、「手心」という気配りを失ったかに見える子ども。同様の体験が手心に結びつきそうである。「手心」をどこまで出せるかは、その場の相手の「心」の読みが決め手。それは、ある種の「ひらめき」感。どこで養えるのか。みんなで考えるコーナー室長 岩尾 淳一

帯電話の正しい使い方についてです。子どもは小さい時からの生活は当たり前のように身につけています。例えば、日々の挨拶などは家庭で身につけられ自然に出てくるものだと思っておりましたが、核家族化が進む中で、そういった基本的なことに欠けてきているのが残念なことだと思えます。また、子どもたちにとって危険と隣り合わせなのが、インターネットと携帯電話です。便利な世の中になった今だからこそ、私たち大人が、正しい携帯電話の使い方を知るといことで大分県生活環境部私学振興・青少年課の方に講演をお願いしました。皆さんは高校の入学祝いや、塾通いをさせるからと言って電話を持たせていませんか?と聞かれ、私自身も長男が、高校入学と同時に買いました。

平成23年度の任意保険の募集が始まります

3月1日より

《申込期間》
4/1加入:3月1日~3月31日
中途加入:4月1日~4月25日

《補償期間》
4/1加入:4月1日~24年4月1日
中途加入:4月30日~24年4月1日

《保険の種類と保険料》
・育英補償(子ども総合保険)
Aコース:4,800円(一人目)
Bコース:3,540円(二人目から)
・自転車補償(自転車総合保険)
Cコース:930円(一人目)
Dコース:540円(二人目から)

同一世帯で複数のお子様加入する場合や両方の保険に加入する場合など、保険料が変わります。保存版パンフレットでコースをご確認の上、この機会にぜひご加入ください。

保険請求先 トータルアシスト(代理店) 0120-112-357
制度問合せ先 大分県PTA連合会事務局 097-556-9055

MS&AD 三井住友海上

わたしのゴールキーパー

三井住友海上の GK

〒104-8252 東京都中央区新川2-27-2 www.ms-ins.com

編集後記

▼「存在そのものを愛して」という講師の言葉。我が身を振り返るよい機会に。
▼親と子の「心のふれあい」。ともに手をたずさえてつながることの大切さを痛感。
▼「手心」とは、無理のないように程よく扱うこと。その手の握り具合が一番難しい所。
▼「中学3年生学力診断テスト」。来年度受験生の子を持つ私も実施を願っています。

県P情報

日中友好「少年少女の翼」
(社)日本PTA全国協議会 主催

・訪問先 中国・北京
・日程 平成23年3月27日(日)~31日(木)(4泊5日)
・参加者 姫島村立姫島中学校・明石 玲さん2年生 豊後大野市立朝地中学校 工藤 夏音さん2年生